

地方大学・地域産業創生交付金（帯広市）〈R7年度～R16年度（R11まで国費支援）〉
（十勝型フードシステムの形成 ―農畜産と食品加工の連携による価値創出―）※

※今後、地方大学・産業創生法に基づく計画の認定手続きが必要

概要

- 十勝の強みを生かした**十勝型フードシステムの形成**を目指し、**持続可能な農畜産業への移行により生産基盤の安定化を図るとともに、食品加工業との協同化によるブランド力向上を図る。**
- 北海道国立大学機構（帯広畜産大学、小樽商科大学、北見工業大学）では、3大学の融合を加速し、**生産・加工・流通・消費に至るバリューチェーンを包括的にコーディネートできる専門人材の育成と研究開発**に取り組む。

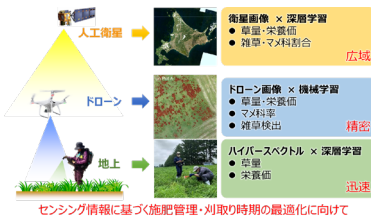
活動内容

（プロジェクトの狙い）

- 十勝地域では、労働人口減少、飼料・肥料等の生産資材価格の高騰等の環境の悪化に加え、多くの農畜産物が加工されずに原料のまま移出され、域内で十分な付加価値が生まれていない状況。
- そこで、畑作と酪農を有機的に組み合わせた**持続可能な農業モデル**により、**生産の安定と品質の確保**を目指しつつ、**加工・商品開発を通じて地域内経済の循環を促進**する。

（具体的取組）

- 次世代農畜産技術実証センターの機能を強化し、**大規模データに基づく生産・収穫管理、堆肥・牛床敷料の量産化、スマート農業向けの作物育種の開発等**を行うことで持続可能な農業への移行を図る。
- 帯広畜産大学に**食品加工実証センター**を新設し、同センターの下に**チーズ工房、小豆に関する研究所を設置**することにより、**嗜好性・機能性の高いチーズ、小豆加工品等のマーケティング、開発、ブランディング、販路拡大**に取組み、地域内の経済循環を高める。
- 3大学の教員を配置した**融合教育連携室**を新設し、「**フードバリューチェーンコーディネーター育成プログラム**」を始めとする**農商工連携の融合型教育プログラムを開発・実施**することで、即戦力人材を地域に輩出。将来的に**学位プログラムを創設**。



大規模データに基づく生産・収穫管理



次世代堆肥化ロボットの開発



チーズ製造実習の様子